

平成 27 年 2 月 20 日

お取引先 各位

フィガロ技研株式会社
営業部門長 宇高利浩

フーゴプロにつきまして

平成 27 年 2 月 19 日に国民生活センターより、市販のアルコールチェッカーの信頼性に関する報道がございました。その後、当社のアルコールチェッカー『フーゴプロ』の信頼性に関するお問合せを多数いただくようになりましたので、ここに当社の見解を公表いたします。

① 国民生活センターの報道発表内容

市販の簡易型アルコールチェッカー 6 銘柄をテストしたところ、アルコール濃度を高くしても測定結果があまり変わらないものや、アルコール濃度が低めだと検知しないもの、同じアルコール濃度に対しばらばらの測定結果が出たものなどがあった¹⁾。

② フィガロ技研のアルコールチェッカーが調査対象となっていたか？

下記根拠から、フィガロ技研は同調査の対象となっていないと判断します。

・根拠①

調査対象となったアルコールチェッカーはすべて 1 万円未満の簡易型のアルコールチェッカーです。一方、現在フィガロ技研が取り扱っているアルコール検知器の定価は 3 万円以上で、報道内容と相違があります。

・根拠②

調査対象となったアルコールチェッカーのメーカーに対して独自のアンケートを実施されたようですが、当社ではこのようなアンケートを受け取っておりません。

③ フィガロ技研のフーゴプロに対する信頼性について

アルコールチェッカーに搭載されるガスセンサには様々な種類があります。このうち、特に多く流通しているものには半導体式ガスセンサもしくは電気化学式ガスセンサ（燃料電池式ガスセンサ）が搭載されています。これらのガスセンサには、次表のような特徴がございます。

表. ガスセンサのメリット/デメリット

検知原理	メリット	デメリット
半導体式ガスセンサ	<ul style="list-style-type: none"> ・応答性に優れる ・小型 ・安価 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルコール以外のガスに反応する可能性がある ・個体差がある
電気化学式ガスセンサ (燃料電池式ガスセンサ)	<ul style="list-style-type: none"> ・再現性が高い ・アルコール以外のガスにほとんど反応しない 	<ul style="list-style-type: none"> ・測定時間が長い ・高価

一般的に、電気化学式ガスセンサは半導体式ガスセンサよりも精度が高いといわれており、一般社団法人自動車技術会の将来の交通・安全委員会でもこの優位性が確認されております²⁾。今回の調査対象となったアルコールチェッカーの商流および価格から、調査対象機器はいずれも半導体式ガスセンサが搭載されたものと推察されます。一方、フーゴプロは電気化学式ガスセンサを搭載しており、非常に優れた精度を有しております。

また、調査対象となったアルコールチェッカーはいずれも「吹きかけ方式」(ストローやマウスピースなどを一切使用せずに息を吹きかける方法)で測定を行います。この方式では、ストローなどを介さずに使用できるため簡便に測定できる反面、外乱要因の影響を受けやすく、測定精度を低下させる要因にもなります(例えば、風が吹いている場所で使用すると、息に含まれたアルコール成分が風によって薄まってしまう等)。フーゴプロではストローによる吹きつけを行うため、このような影響は一切受けません。さらに、フーゴプロには不正な吹きつけを識別する機能も搭載しており、安心してご利用いただけるものがございます。

フーゴプロをご利用いただいているお客様におかれましては、これまでどおり安心して製品をご利用下さい。今後とも変わらぬご愛顧の程、宜しく願い申し上げます。

1)国民生活センター：「過信は禁物！息を吹きかけて呼気中のアルコール濃度を調べる測定器」(平成27年2月19日)

2)一般社団法人自動車技術会 将来の交通・安全委員会：「2009年度 活動報告書」(2010年4月26日)